

1 都市計画マスタープラン策定の目的

札幌市の目指すべき都市の将来像の実現に向けた取組の方向性を全市的視点から整理し、都市づくりの総合性、一体性を確保することを目的とするとともに、今後の協働の都市づくりを推進する一助とする。

2 計画の構成

1	都市づくりの理念・基本目標など	今後重視すべき観点や、都市づくりの理念・基本目標など、都市づくりの基本的な考え方を整理
2	都市づくりの施策の方向性など	土地利用・交通・みどり・エネルギーなどの部門別の基本方針・施策の方向性と、総合的な施策の方向性を整理
3	実現に向けた体制・進め方など	今後の都市づくりを展開していくための市民・企業・行政の担う役割や進め方を整理

3 計画の前提

目標年次	概ね20年後の <u>平成47年(2035年)</u>
将来人口	目標年次における人口を <u>182万人</u> と想定
対象区域	<u>本市の行政区域</u>

4 都市づくりの理念・基本目標

(1) 札幌の都市づくりに関する現状・課題(抜粋)

【人口・高齢化】	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年(2015年)頃をピークに人口減少 平成47年(2035年)には3人に1人が高齢者 生産年齢人口の減少などによる経済規模の縮小の懸念
【市民生活・交通】	<ul style="list-style-type: none"> 人の移動(トリップ数)減少 移動目的が通勤・通学から私用へ転換 自動車依存率の高まり
【環境・エネルギー】	<ul style="list-style-type: none"> 平成2年(1990年)比でCO₂排出量は増加 民生部門(冬季暖房含む)のエネルギー消費が多い
【財政】	<ul style="list-style-type: none"> 保健福祉費増、道路など都市基盤に必要な維持費の増、市税収入の減 公共施設、インフラなどの老朽化による、更新費
【市街地形成】	<ul style="list-style-type: none"> 主に都心部で更新時期を迎えている建物等が多い 地域ごとに異なる特性や市街地を形成してきた歴史がある

(2) 新たな視点を考慮した今後重視すべき観点

計画の前提となるまちづくり戦略ビジョン、現状や課題、これまでの都市づくりの変遷などを踏まえた新たな視点を考慮し、今後重視すべき観点を整理した。

- 新たな価値を創造し、成熟社会を支える都市づくり
- 持続的・効率的な維持・管理が可能な都市づくり
- エネルギー施策と連携し、環境と共生する低炭素型の都市づくり
- 地域特性に応じた地域コミュニティの活力を高める北国らしい都市づくり
- 災害等に備えた安全・安心な都市づくり

(3) 都市づくりの理念

現行都市マスの理念である「持続可能なコンパクト・シティへの再構築」を踏襲し、まちづくり戦略ビジョンにおける都市空間創造のコンセプトである「S・L・I・M City Sapporo」を更に進め、今後重視すべき観点を加え、新たな都市づくりの理念として整理した。

● 戦略ビジョンにおける都市空間創造のコンセプト

- S** : Sustainability (持続可能性)
- L** : Livable (安心・快適で質の高い生活)
- I** : Innovation (創造性の発揮)
- M** : Managing (エネルギーやモビリティなど多様なマネジメント)

● 今後の都市づくりに関わる重視すべき観点のキーワード

すべての人(Everyone)、経済(Economy)、活力(Energy)、既存(Existing)、自然環境(Ecology)、環境(Environment)、など、様々な「E」が重要 ⇒ 「Es」

● 新たな都市づくりの理念

誰もが笑顔で生き活きと暮らせるまち
S・M・I・L・Es City Sapporo

(4) 都市づくりの基本目標

【都市づくり全体】

- 都市の魅力・活力を創出し、高次な都市機能を備え、多様なネットワークで国内外とつながる **世界都市**
- 超高齢社会を見据え、地下鉄駅の周辺などに、居住機能と生活を支える多様な都市機能を集積することで、円滑な移動や都市サービスを楽しむことができる **コンパクトな都市**
- 良好な環境を備える郊外での暮らしや利便性の高い都心・拠点での暮らしが選択できるなど、住まいの多様性が確保された **札幌らしいライフスタイルが実現できる都市**
- 公共交通を基軸としたまちづくりの推進や、新たなエネルギーネットワークの構築などによる **低炭素都市**
- 都市基盤が効率的に維持・保全され、都市活動が災害時にも継続できる **安全・安心な都市**

【身近な地域】

- **多様な協働**による地域の取組の連鎖

札幌市都市計画マスタープランの見直し骨子案について

5 都市づくりの施策の方向性

都市づくりを進めていくに当たり、「土地利用」「交通」「みどり」「エネルギー」などの部門ごとに、基本方針や施策（取組）の方向性を示す。

(1) 土地利用

<市街地>

- 複合型高度利用市街地では、集合型の居住機能の集積や、歩きやすさを重視した歩行者環境整備などによる、質が高く高密度な住宅市街地を形成する。
- 一般住宅地・郊外住宅地では、新しい価値を創造し、地域の魅力向上に向けた取組、小学校への機能の複合化などによる住宅地の魅力向上にむけた総合的な取組を検討する。

<都心>

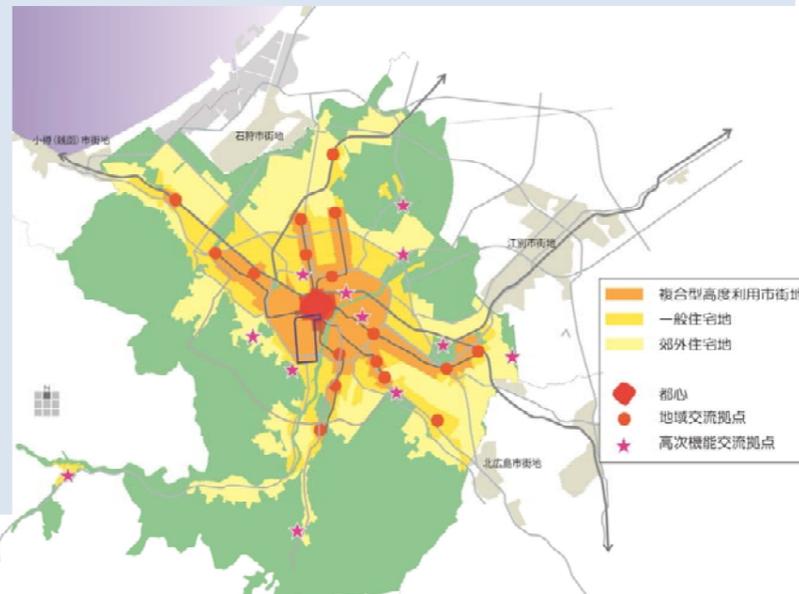
- 高次な都市機能の集積・強化や、建物のグリーンビル化、エネルギーネットワークの形成、災害時における都市機能の継続性の確保などの取組を推進する。

<地域交流拠点>

- 各拠点の置かれている状況を整理するとともに、地下鉄始発駅などにおける交通結節性や基盤整備状況などの地区特性を踏まえて、優先度を考慮した取組を推進・強化していく。
- 空中歩廊や地下歩行ネットワークへの接続など、冬でも快適な歩行空間の創出を促進する。
- 公共施設等の建替に合わせて、コージェネレーションシステム等の導入及び面的なエネルギーネットワークの拡充について検討を進める。

<市街地の外>

- 豊かな自然環境を有する山林原野、丘陵台地、農地などについては、今後とも適切に保全する。
- 市街地の外にある高次機能交流拠点において、拠点的な機能や魅力向上に資するよう、地域特性を踏まえて周辺の環境にも配慮した限定的な土地利用の許容について検討する。



(2) 交通

<公共交通ネットワーク>

- 軌道系交通機関、バス、路面電車などにおけるネットワークの充実を図る。
- 乗継施設等利便性や快適性の向上のほか、都心部や主要な駅について、周辺の道路などの公共空間も含めた交通施設等のバリアフリー化を推進する。

<道路ネットワーク>

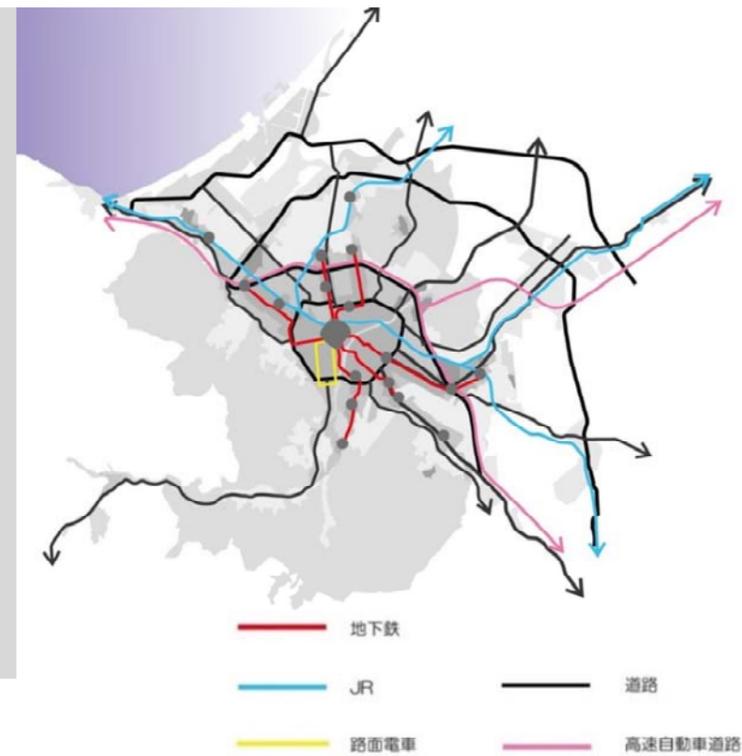
- 地域の交通状況、ニーズに応じて、必要な円滑対策や道路ネットワークの維持・充実を進める。

<広域的な交通ネットワーク>

- 国や道・周辺市町村などとの連携により、丘珠空港の道内拠点空港としての機能向上を促進する。
- 北海道や鉄道・運輸機構との連携により、1日も早い北海道新幹線の札幌開業を目指す。
- 都心から高速道路へのアクセス性向上の実現に向け、国と連携して検討を進める。

<地域特性に応じた交通体系の構築>

- 地下歩行ネットワークなどにより、積雪やバリアフリーにも考慮した歩行者環境の充実を図る。



(3) みどり

<市街地のみどり>

- 都心部の貴重なみどりを保全するため、様々な支援や適切な管理による保全を図るほか、景観に配慮した建築物緑化やオープンスペースの緑化を創出する。
- 地域特性や市民のニーズなどを踏まえ、人口が増えている既成市街地における公園機能の確保や、地域ごとに機能を見直しながら再整備を進める。

<市街地の外のみどり>

- 地域制緑地などの制度によりみどりの保全を図るほか、市民などとの協働により骨格となるみどりづくりを推進する。

(4) エネルギー

<効率的なエネルギーの面的利用の推進>

- 都心において、コージェネレーションと地域熱供給による熱・電力の面的エネルギーネットワークの構築と、省エネ性能の高いグリーンビル化を推進する。
- 都心において、災害時にも熱・電力の供給を継続できる自立分散型エネルギー供給拠点の整備を推進する。
- 拠点等においては、建物更新時にエネルギーネットワークへの接続を促進するとともに、周辺への波及効果を生む取組を検討する。

<再生可能エネルギーの活用>

- ごみ埋立地や大規模未利用地を活用したメガソーラー発電設備設置など、再生可能エネルギーの積極的な導入・拡大を図る。
- 風力・地熱・太陽光発電・バイオマス熱利用などの広域的な活用について、道内連携や各自治体との協議を深め、方向性を検討する。

札幌市都市計画マスタープランの見直し骨子案について

6 総合的な施策（取組）の方向性

5で示した各部門の施策において、**分野横断的な連携により戦略的に取組むべき施策（取組）**を以下に整理した。

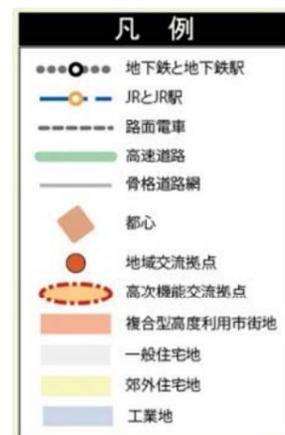
1 経済成長と低環境負荷の実現を支える都心機能の強化

- 【国内外から投資を呼び込む魅力ある観光・ビジネス環境の形成】
 - 札幌型MICEの中核となる都心の機能・連携強化
 - 国際的な企業の誘致や起業促進、新たな成長産業の創出
- 【人々を惹きつける魅力と快適性を兼ね備えた都心ライフの受け皿形成】
 - 都心の移動手段の充実化、多様化
 - 質が高く多様性を受け入れる居住環境、働く場、公共空間の形成
 - パブリックスペースや文化施設等の魅力を活かした賑わいの連続化
 - 都心アクセスの強化や歩行者環境の向上による都心交通の機能強化
- 【世界をリードする環境配慮型のモデル地区形成】
 - 安全・安心なまちづくり、災害に強いインフラ整備
 - エネルギーネットワークの形成
 - 既存施設のリノベーション、ストック活用の促進
- 【継続的發展を支える民間活力の活用と柔軟なマネジメント体制構築】
 - 環境配慮型の市街地形成を目指すスマートシティマネジメント
 - 国内外からの来街や企業立地を促進させる国際戦略マネジメント

2 多様な交流を支える交流拠点の充実・強化

- 【各拠点の特性に応じて優先度を考慮した都市開発の誘導と基盤整備】
 - 地域の実情に応じた機能集積への誘導
 - 地域の活力を活かしたまちづくりの推進
 - 面的エネルギーネットワークの拡充の検討
- 【主要な拠点を中心とした地域単位での交通機能の向上】
 - アクセス性の向上、交通結節点の機能改善など、地域単位での交通機能の向上
 - 冬でも快適な歩行空間の創出
- 【にぎわい・交流を創出する空間の整備】
 - 地域特性に応じた広場など、交流空間の整備

※上記項目は新都心まちづくり計画との整合を図る



3 多様な住まい方を支える魅力ある市街地の実現

- 【高密度で質の高い住宅市街地の形成】
 - 地域特性を考慮した集合型の居住機能などの集積や、歩きやすさを重視した歩行者環境整備などによる、高密度で質の高い住宅市街地の形成
 - 路面電車沿線などの魅力を高める景観まちづくりの推進

※オープンスペース・ネットワークの考え方については、地域特性に応じて、都心・拠点・住宅地・調整区域等において引き続き踏襲していく

4 地域特性に応じた住宅地の質の維持・向上

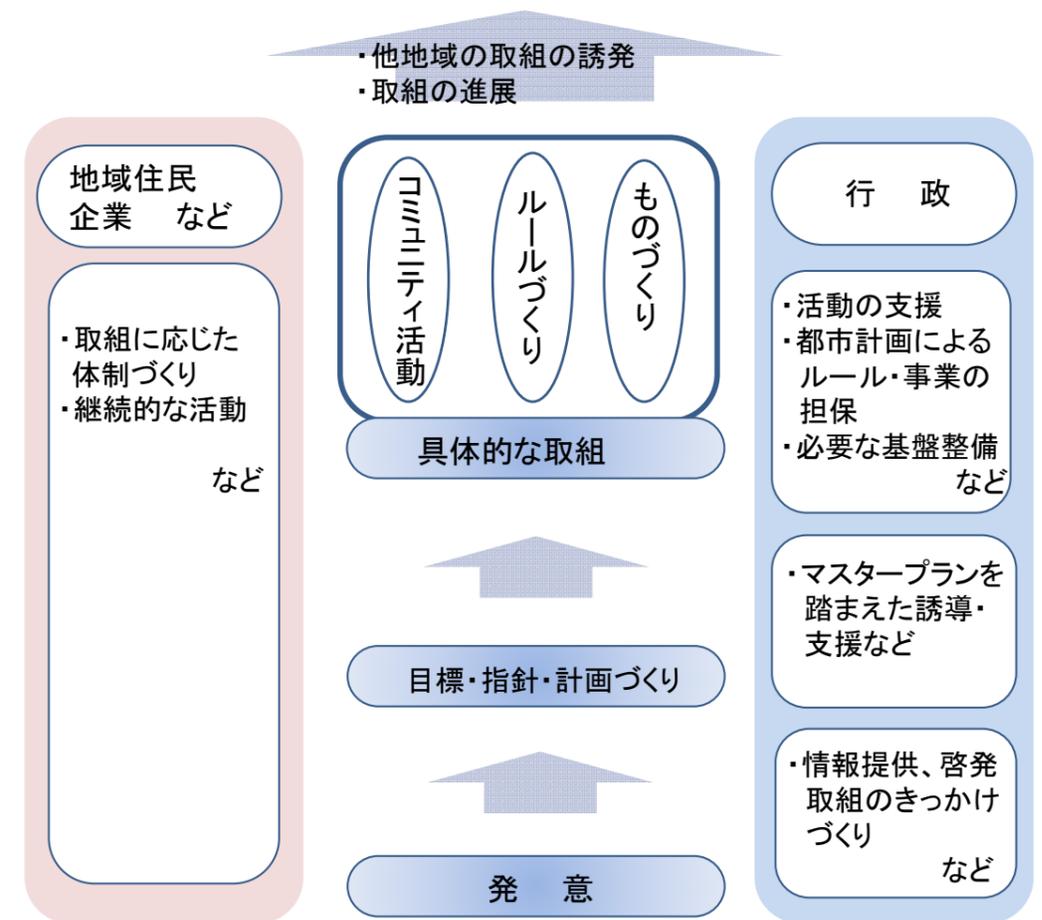
- 【良好な住環境の維持・向上】
 - 小学校への機能の複合化などによる地域コミュニティの活性化
 - 郊外住宅地の居住環境の維持、生活利便機能の向上
 - 地域資源の有効活用による魅力向上
 - 今後増加していく空き地・空き家への対応

5 市街地の外の自然環境の保全と活用

- 【良好な自然環境の維持・保全・創出】
 - 森林・農地等の保全・創出
 - 緑地創出の誘導
- 【市街地の外ならではの特質を生かす土地利用の検討】
 - 保全と活用の方針による土地利用計画制度の適切な運用
 - 自然環境の保全を前提とした土地利用ニーズへの対応
 - 機能や魅力を向上させる高次機能交流拠点周辺の取組

7 施策の実現に向けた体制・進め方

地域の住民などの主体的な取組を行政が支援し、市民・企業・行政等の協働による地域の取組を推進していく。



(参考) 策定スケジュール

	平成26年度		平成27年度					
	5月	3月	5月	7月	9月	11月	2月	3月
都計審	3/未 現状報告		6/4 中間報告	7/23 報告 骨子案	9/15 計画 報告素案		1/29 計画 報告素案	3/未 承認
部会	第1回～第7回		第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回
市民	アンケート 子ども議会 ワークショップ		パネル展 7/22～8/6 ワークショップ 8/2		パブコメ			